

2015 年 3 月期 決算発表 主な質疑応答

1. **2015 年 3 月期の実績について説明してほしい。**
 - A. 主要市場における厳しい競争環境のなか、正価販売を維持しつつ、フリート販売を抑制しながら、対前年で 6 万 6 千台、5%増となる 139 万 7 千台と過去 20 年で最高の販売台数を達成しました。
生産面では、メキシコ工場で年間 14 万台を生産しました。また、タイの新 AT 工場も 1 月から稼働を開始しており、グローバル生産体制の再構築は着実に進捗しました。
収益面では、営業利益が 2,029 億円、当期純利益が 1,588 億円と前年を上回り、開発費や広告宣伝費など将来のための成長投資を強化しつつ、最高益を確保しました。

2. **2014 年 4 月発表の 2016 年 3 月期の販売台数目標 152 万台に対して、今回 149 万台に見直した要因は？**
 - A. 中国、ロシアなど新興国を中心に足許の販売状況や需要減による影響を計画に反映しました。今後も台数規模のみを追求するのではなく、正価販売方針を継続し、台当たり利益の最大化に向けてブランドを強化しながら健全な台数成長を図ります。

3. **構造改革ステージ 2 の最終年度である 2019 年 3 月期の販売台数は 165 万台ということだが、2015 年 3 月期実績の販売台数 140 万台から、どの車種や地域で販売増を見込んでいるのか？**
 - A. 車種別には、グローバルにセグメントの拡大が見込まれる SUV セグメントに属する CX-5 や CX-3 を軸に、バランスのとれた台数成長を図ります。
市場別では、北米市場と、商品ラインアップの拡充と市場の潜在成長性によるその他市場(主にアセアン市場)での台数増を見込んでいます。

4. **2015 年 3 月期の営業利益率 6.7%に対し、構造改革ステージ 2 の目標が 7%以上というのは少し保守的ではないか？**
 - A. 将来の成長投資と収益性の向上を同時に図っていくことから、利益／営業利益率は緩やかな向上になる計画です。次世代の開発投資の手を緩めず、財務規律を徹底しながら、安定的な収益の創出を図ります。

5. 今後の株主還元の方針について説明してほしい。

- A. 当社は、配当金について、当期の業績及び経営環境並びに財務状況等を勘案して決定することを方針とし、安定的な配当の実現と着実な向上に努めることとしております。今後も、財務基盤の強化とあわせて配当性向を段階的に引き上げ、構造改革ステージ2の最終年度である2019年3月期には20%以上を目指します。

#####